

## 16. 工学研究所

### 【 到達目標 】

本研究所の目的である工学の発展に資するために、本学工学部の専門分野の教員を主体として、他大学の教員、他研究所・企業の研究者・技術者を行う共同研究を支援する。また、研究所客員研究員・特別研究員制度を活用し、学内外の人材を工学研究所の研究課題遂行のため積極的に招聘して密度の濃い研究を実行する。

具体的には、企業と共同研究を行う組織の充実、及びそれを遂行するための規定の創設などを目標とする。本研究所の特徴である大型研究設備のさらなる整備、充実及び厳密な審査を図る。さらに、本研究所を含めた工学部、本研究所の外部認識強化（ポテンシャルアピール）をイベント的に企画実行する。

### 【 現状説明 】

数年来、産学連携による“新技術・新産業創出指向の共同研究”を目指して改革を進めてきた。従来、本研究所は工学部の附置研究機関として設置されていたが、工学部教授会の議を得て2004年度の工学研究所規程の改定を行い独立した工学系研究機関として発足することとなった。これにより本研究所は工学部から独立した組織となるとともに、「教育」の工学部、「研究教育」の工学研究科、第三の組織として「研究専門」の本研究所として役割分担が明確になった。2005年度には工学研究所運営委員会において工学研究所客員教授規程（案）をまとめ、副学長が召集する総合学術研究推進委員会・研究委員会に、研究所の客員教授制度に関する案を提出した。これが契機となり2007年度に客員教授が定義され研究所客員教授規程が設置された。2006年度には従来の共同研究に加えて、学科・学部横断型の共同研究の推進、外部研究機関・大学の人材との共同研究を積極的に進め、結果として外部資金を獲得できるような目的達成型のプロジェクト研究を所員へ提案し、2007年度より本格的にスタートした。2007年の10月には「テクノフェスタ in 神大」として、研究成果のポスター展示、共同研究・プロジェクト研究発表会を開催した。

### 【 点検・評価 】

毎年4件前後の共同研究、数件のプロジェクト研究の申請があり、その審査等を行う研究支援専門部会を設置することで、運営の効率化・細密化を図ることができた。2007年度にスタートしたプロジェクト研究において16名の客員研究員と1名の特別研究員を学外から迎えたこと、さらには工学研究所が客員教授招聘の検討のきっかけとなり、2007年度に研究所客員教授規程が設定されたことは、外部企業等との連携を着実に進歩させることとなり、評価に価すると思われる。

### 【 改善方策 】

企業と共同研究を行う組織の充実、及びそれを遂行するために、今後の共同研究支援態勢のさらなる強化を図ることが目標である。この目的を達成する方策として、工学研究所を中心に工学部及び工学研究科を含めた研究実績を、広く外部に発信し、認知度を高める活動を引き続き進めたい。そのためには、客員教授、客員研究員、特別研究員をより積極的に招聘し、工学研究所の研究を活性化していく必要があると考えている。